

さらなる時代の扉をひらけ

札幌学院大学
創立50周年



Sapporo Gakuin University

学園広報

1997. 12. 10 No.68

編集・発行 札幌学院大学 企画調査室
〒069 北海道江別市文京台11番地
電話 (011)386-8111

八月二十三日(土)、創立五〇周年を同窓会員と共に祝い「結集の力を示そう文泉会」を合言葉に、札幌学院大学文泉会創設以来のイベント「切文泉会サマーフェスティバル」を企画、札幌学院大学、札幌グランドホテルの両会場で盛大に開催された。

第一部 母校見学会(二二名参加)、第二部 直木賞作家、渡辺淳一氏の講演会(六二〇名参加)、第三部 祝賀パーティ(四五〇名参加)の盛りだくさんの行事に道外ソアの会員も参加。母校発展の有り様を、目と足で確認し、市民と席を並べ、講演会に昔の授業を回顧していた。文専・短大・商大・学院大の各卒業生が一堂に会し、昔を語り、未来へと羽ばたく母校の飛躍を祈念した。更に、各支部、先輩の会社、個人から提供された景品で大抽選会(二二〇件)が行われ、一喜一憂、最後まで和やかな雰囲気で行われ、会

同窓生ら集い 盛大に開催

母校の50周年を祝う

'97文泉会サマーフェスティバル

学園創立50周年記念 講演と音楽の夕べ

1,700名の聴衆
華麗な演奏を満喫



演奏の合間にユーモアたっぷりのトークで会場をわかせた羽田健太郎氏

ロマンに満ちたピアノの調べ 羽田健太郎コンサート

学園創立五〇周年記念行事の一環として「講演と音楽の夕べ・羽田健太郎コンサート」が、十一月十三日(木)午後六時三〇分から、本学園発祥のゆかりの地、中島公園内、札幌コンサートホール「Kittara」の大ホールにおいて、多数の市民、同窓生、学園関係者を迎えて開催された。すでに午後四時三〇分には会場前に並び、開場予定をくりあげてホールに入場していただくほどで、開演時には、ホール三階まで、ほぼ

一七〇〇名の聴衆でうまみ、壮観であった。コンサートは、「名刺がわり」といわれて、自作の人氣TVドラマ「渡る世間は鬼ばかり」のテーマ曲から始まった。第一部はドビュッシー「月の光」当夜の会場の上空には、満月に近い名月が輝いていた。チャイコフスキー「くるみ割り人形」より「花のワルツ」をはじめ、メンデルスゾーン、ガーシュインなどのクラシックの名曲が、休憩をはさみ、第二部は、自作の「秋霖」、「長い夜を過ぎて」をはじめ、日本の四季メロディ、聴衆からのリクエストによる「SON LOVE」、「ひき潮」、「慕情」を含む十数曲のスクリーンミュージックメドレーが、華麗に演奏された。演奏の合間々々は曲目の解説や自身の音楽学生時代の

エピソードなどが、「素材の提示・展開・落ち」による巧みな羽田流話術によって語られ、会場はしばしば笑い渦にまぎこまれた。年間、百六十回というコンサートで全国のホールとピアノとを熟知している羽田氏は、「今日の学園創立五〇周年という記念のコンサートは自分の演奏史の中でも思い出に残るもの」といわれた。また「これは屈指のホールになる」といわれ、「これは鳴りがいい」、「自分と相性がいい」を連発されたほどの名器スタインウェイ中の逸品である、当夜のピアノの上回るひとびとのご参加をいただくことができた。準備段階から協力いただいた関係各位にこの場をお借りして御礼を申し上げます。

声をかけてくださったり、料金設定を含めて、このような機会を大学が企画したこと感謝して下さった。「講演と音楽の夕べ」は、本年度二十一回目にあたるが、学園創立五〇周年という節目の事業であることから、従来の実績を上回ることを目標として、一人の講師による音楽重点の企画を探ることとした。幸いにして、「ハネケン」と愛称される羽田健太郎氏の抜群の知名度とオープンしてまもないコンサートホールの新鮮さと魅力という条件にも恵まれ、予想をはるかに上回るひとびとのご参加をいただくことができた。準備段階から協力いただいた関係各位にこの場をお借りして御礼を申し上げます。

キャンパス見学会

大学生活 見て聞いて

参加者は過去最高

八月三十日(土)、本年度のキャンパス見学会が行われた。文泉会は、会員八、四八四名を擁する同窓会で、道内に二十八支部、道外に八支部を擁する。当見学会は来春に受験を控えた受験生や父母、高校の教員の方々に諸施設を見学していただくとともに、本学の設置、近年、活動も特に活発化の傾向を示し、昨年は、三十六支部全てが総会を開催し、

入試制度や入学後の学生生活の疑問に答えることを目的として開催しているもので、今年で十年目を迎えた。本年度の参加人数は過去最高だった昨年の三二八名を大きく超える四〇三名で、高知・新潟など道外からの参加者も目立った。

当日は全体説明会・ビデオ上映に引き続き、就職情報センター・CALL教室・情報教育実習室等、諸施設を自由に見学して頂いたほか、入試・就職・学生生活・各学科内容についての相談コーナーを設けて受験生の相談を受けた。本年度の見学会では、特に会場を50周年記念館に移して開催したこともあり、各相談コーナーに非常に多くの参加者が来場した。相談コーナーでは終了時間を過ぎても熱心に話しこむ生徒も見受けられた。また、今回初めて生徒に公開されたCALL教室も大変好評で、実際にコンピュータに触れた生徒からは「こんな英語学習なら楽しんで学習できる」「ぜひ札幌学院大学で勉強したい」という感想が



独特の語り口で聴衆を魅了した渡辺淳一氏



大抽選会でグアム旅行をゲット、喜ぶ当選者 = 祝賀パーティ



入試相談コーナーに列を作る受験生。終了時間をオーバーする光景も

多かった。資料配布時に配られたアンケートの回答を見ると、「学部・学科について、資料だけではわからない細かいこともわかった」「先輩学生の話が聞けてよかった」と、学部・学科について、など、生徒も大変満足したようである。

一般入学試験日程

学部・学科	出願期間	試験日	試験場	合格発表日
人文学部人間科学科	1月8日(木)~ 1月20日(火)	2月7日(土)	本学 青森 仙台 東京 大阪	2月24日(火)
商学部第二部商学科		2月8日(日)		
法学部法律学科		2月9日(月)		
経済学部経済学科		2月10日(火)		
人文学部英語英米文学科		2月11日(水)		
社会情報学部社会情報学科	2月24日(火)~ 3月2日(月)	3月5日(木)	本学	3月10日(火)

外国人留学生入学試験日程

学部・学科	出願期間	試験日	試験場	合格発表日
商学部第二部商学科を 除く全学部・学科	12月8日(月)~ 12月18日(木)	1月21日(水)	本学	1月27日(火)

'98(平成10)年度

人文学部20周年 多彩に記念イベント

英語教育への希望広がる

CALL一般公開・講演会・シンポジウム



夜来の雨もあがり、待望の秋の日差しがめくキャンパスで、人文学部創立二十周年を記念した英語英米文学科主催の一連の行事が十月十八日(土)行われた。

最初は本年より導入された北海道のコンピュータ支援によるCALL教室の一般公開である。本学人文学部の岡崎清助教授がCALL導入の目的、その効果的な利用法等について紹介、補助椅子まで用意するほど集まった参加者は、BBC制作の英語学習ソフトを自分で操作し、コンピュータを利用した英語学習を初めて体験した。

午後は会場をG館S.G.Uホールに移し、米国スタンフォード大学ジョン・マコーネル博士による講演会が二〇〇人以上の聴衆を前に開催された。演題は「ポストレス時代における世界語としての英語」で、女史は現代における英語の多様性を踏まえた上で、二十一世紀における英語習得の必要性と重要性を先生の体験談を交えながら強調された。

引き続きシンポジウム「変貌する英語学習環境とコミュニケーション」国際化とマルチメディア化をふまえて、本学の岩城禮三、及川英子両教授の司会により始まった。

講師の飯塚成彦(白鳥)大学教授は、児童英語教育・早期英語教育を推進する立場から、言葉としての英語教育の重要性を力説された。続いて福田昇八熊本大学教授は運用能力の高い英語教員を養成してきた経験を自ら語り、英語教員が変れば、生徒・学生も変わる可能性が大であることを主張された。最後に羽鳥博愛(文京)女子短期大学教授・(財)日本英語検定協会会長は、マルチメディアを利用した英語教育を推進する立場から、その利点を挙げて、特に生徒・学生に対する動機付けとしての有効性を指摘された。聴衆からも活発に質問が出され、これからの英語教育に対する関心が会場全体で高まった。

海外レポート 中国「实事求是」の 神髄のもとに 経済学部助教授 鏡味秋平



你们好！先ほど行われた中国共産党第十五回全国代表大会における報告の中で、江沢民は次のように述べています。「实事求是はマルクス・レーニン主義の神髄であり、毛沢東思想の神髄であり、また鄧小平理論の神髄である」と。实事求是とは毛沢東の言葉で、実際の対象から出発し、その発展する法則を探る者の指導教授である。劉振亞教授(中国人民大学)に、私は中国人民大学で素晴

究し、事実の本質を認識するという意味です。实事求是は中国共産党の精神的支柱です。今私が通っている中国人民大学の正門には横幅が五メートルほどある大きな岩に、建学の精神が深く刻み込まれています。实事求是の四字文字です。このことから分かるように中国人民大学はマルクス・レーニン主義、毛沢東思想、鄧小平理論を基本とした社会科学の総合大学です。特に経済学系においては八百余名の教員を擁する中国随一のレベルを誇る国家重点大学です。

私の北京での研究目的は、中国の国民経済計算をもとに中国経済を計量経済学的に分析することです。幸いなことに、私は中国人民大学で素晴

から強調された。引き続きシンポジウム「変貌する英語学習環境とコミュニケーション」国際化とマルチメディア化をふまえて、本学の岩城禮三、及川英子両教授の司会により始まった。

講師の飯塚成彦(白鳥)大学教授は、児童英語教育・早期英語教育を推進する立場から、言葉としての英語教育の重要性を力説された。続いて福田昇八熊本大学教授は運用能力の高い英語教員を養成してきた経験を自ら語り、英語教員が変れば、生徒・学生も変わる可能性が大であることを主張された。最後に羽鳥博愛(文京)女子短期大学教授・(財)日本英語検定協会会長は、マルチメディアを利用した英語教育を推進する立場から、その利点を挙げて、特に生徒・学生に対する動機付けとしての有効性を指摘された。聴衆からも活発に質問が出され、これからの英語教育に対する関心が会場全体で高まった。

現在、彼とそして彼の大学院生と共に世界経済の計量分析に取り組んでいます。マルクス・レーニンとは全く無縁の研究会です。こうした研究会が中国共産党のメッカといえる人民大学において、精力的に行えるのも、事実にもとづき、現実にあった理論を構築しようという实事求是の精神の賜ものだと思っていま

留学記 PLU 体験 友との旅 弾む英会話

感激！アメリカのオーシャン
友との旅 弾む英会話

人文学部英語英米文学科3年 成田 輝

私の五カ月の留学を語る上で、勉強、ホストファミリーとの出会いという大要因以外に、アメリカを強く感じさせた。

五月二十一日、私と同じ家にホームステイしているスロバキアから来ている学生、パロとその友人イゴールと共にレンタカーでワシントン州タコマ市を出た。タコマ市はワシントン州の西部に位置する町である。二時間も歩かない内に視界に海が広がった。オーシャン。日本で見ていた海との一視を許さない、思考能力の器からあふれ出しそうな、そんな海だった。地平線

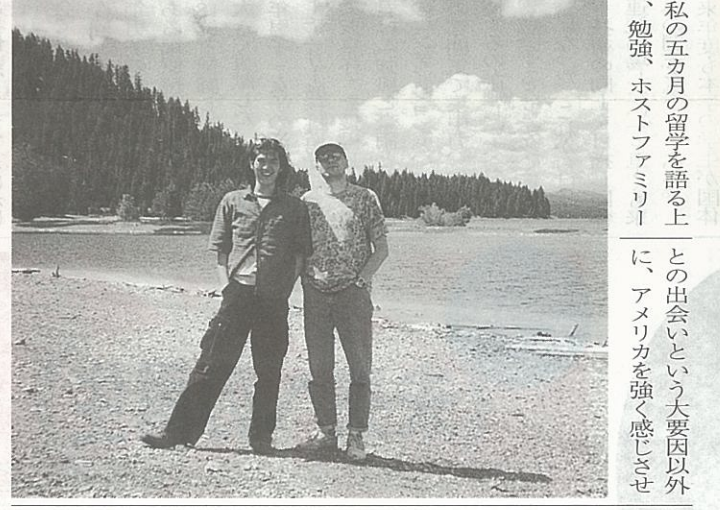
た二要素は、友人とのオレゴン、カリフォルニアへの旅であった。

五月二十一日、私と同じ家にホームステイしているスロバキアから来ている学生、パロとその友人イゴールと共にレンタカーでワシントン州タコマ市を出た。タコマ市はワシントン州の西部に位置する町である。二時間も歩かない内に視界に海が広がった。オーシャン。日本で見ていた海との一視を許さない、思考能力の器からあふれ出しそうな、そんな海だった。地平線

オレゴンとある川のほとりで友人と2人

から海岸までうつすらと覆う霧が一種の催眠術を促進していた。海を見つめながら心を清め、流れる心地良い風の中に沈黙を置き、ゆるやかな幸福の香りを楽しんでいった。海沿いを南下した。ゆっく

りとして流れていく風景、左側を通り過ぎてゆく車、どれもがゆっくりとした時間の流れに連帯していた。アメリカその空間を形容するには具体的なすぎる言葉が頭の中に浮かんだ。感動をパロ、イゴールと共有しつつ、夕暮れを迎えた。「今日はここに泊まろう」。キャンプ場のサインを目にし、私たちは車を止めた。テントを張り、落ちた夜の下で星たけを光源としながら、準備していたビールとサンドイッチを頬張った。会話は弾んだ。不思議と酔いが回っても英語で会話することに何の抵抗もない。むしろ、いつもよりも自然な英語が口を突いて出てきた。これが私の英語上達へのワンステップだったのでは



オレゴンとある川のほとりで友人と2人



筆者の所属するWolfson Collegeにて Dr. John Keownと共に

英国 ケンブリッジ便り 城下 裕二 法学部教授

改革・開放が深まる中、今の勢いで変化しています。江沢民は報告の中で次のように述べています。「右を警戒することでありませぬ」と。鄧小平

ケンブリッジ大学法学部の客員研究員として渡英して半年が経過しました。同大学は十三世紀に創設され、現在では約一七、〇〇〇名の学部生および大学院生が学んでいます。図書館の展示室でニュートン、ダーウィン、ワット、ゲイ・ルッソといった先人たちの手書きの原稿や遺品を目にします。長い歴史が今なお息づいてるのを実感せずにはいられません。町のいたるところに中世以来の大学の建物や点在し、思索の場におさわしい自然環境にも恵まれています。こうした雰囲気から、イギリスの歴史を世界一にまで高めた大きな要因なのかもしれません。

今回、法学部に招聘して下さったJohn Keown博士はイギリスの改革・開放の路線は確固たる信念のもとで、前進あるのみです。再見。

リスを代表する医事法学者で、特に安楽死・尊厳死・堕胎の問題に関する多くの著作を発表されています。大気さく政界からは「安楽死合法化」を推進する一方、研究上の様々な助言を頂いています(講義ではべきとの声明も発表されています)。ガウンを着用されるので、まさに中世の香りが漂います。予定でおります。

家族と共に過ごす大学町の毎日は、新たな刺激に満ちています。以前こちらに留学された日本の研究者の方が、「(一口に)中世の香りが漂います。予定でおります。」

筆者の所属するWolfson Collegeにて Dr. John Keownと共に

- ### 教職員人事
- ◎異動(平成九年九月一日付)
- 財務課長 松田 昇一(財務課財務係長)
 - 学務課長補佐 菅野 純一(就職課長補佐)
 - 管財課長補佐 近藤 直文(入試課入試係長)
 - 入試課入試係長 飛田 哲也(教務課教務係長)
 - 教務課教務係長 山口 清(教務課)
 - 教務課教務係長 斎藤 和郎(教務課)
 - 財務課 渡部 勉(学務課)
 - 就職課 富井 清美(学務課)
 - 図書課 坂井 敏子(教務課)
 - 図書課 甲斐 陽輔(図書課)
 - 総務課 中鉢 哲也(管財課)
 - 教務課 樋田 康宏(総務課)
 - 学務課 二口 利昭(財務課)

応援指導部

初V!

悲願の全道

心をひとつに
大技ピタリ

応援指導部(チーム名「ブルーフェアリーズ」)が、第8回北海道チアリーディング選手権大会(十月に開催)において初優勝を飾り、創部八年目にして全道の頂点を極めた。[本学チーム全道優勝までの軌跡が十月十二日・S.T.V「北再発見」でテレビ放映された]

日頃は、野球やアメリカンフットボールの応援をはじめ、入学式・卒業祝賀会など、全学的行事には欠かせない存在となっている一方で、チアリーディング単独の競技としても活躍し、年々レベルアップを遂げて来た。

チアリーディングは、十六名以内の選手によって2分30秒以内で行われる。その間、タンブリング(前転・側転等)、ジャンプ、スピン、仲間の肩に立ち上がるピラミッド(組体操)等が組み込まれる。

全国大会も決勝へ



華麗な演技で観客を魅了した応援指導部。第8回北海道チアリーディング選手権大会

チアリーディング選手権大会

主催 北海道チアリーディング連盟/大会実行委員会
後援 北海道教育委員会/札幌市教育委員会

ゴルフ部

全道大会V3

団体戦でも全国上位ねらう

道内では団体・個人共に常に上位成績を収め、安定した力を持つゴルフ部は、今年も好記録の話題を集めた。

団体戦では、ゴルフ部の黄金時代の到来とも言える昨年の秋季大会の初優勝で選手は大きな自信をつけた。今年六月の道内対抗戦においては、2位の北海道大学に大差をつけて優勝を飾り、十月に行われた秋季大会では、昨年に引き続き好スコアにより全道大会3連覇という快挙を成し遂げた。

個人戦では、昨年、道アマ

チニア選手権の優勝をはじめ、全国を含めた数々の大会で好成績を残した内藤裕之君(経済学部二年)が今年も好調なスタートを切り、警備杯争奪選手権の優勝、日米大学選手権の日本代表としての出場等の活躍を見た。また、各種の全道大会(個人戦)では内藤君に続く形で、入部一年目で早くも1勝を挙げた中振浩之君(経済学部一年)、年間ベストスコアをマークし優勝を飾った坂井敏昭君(経済学部四年)と常に上位入賞に位置している昨年の新人王・坂井尊治君

(商学部一年)の兄弟部員の活躍が注目された。

今後の課題としては、個人単位では全国大会で活躍している点を生かし、団体戦でいかに全国レベルに近づけるか、また、昨年全道大会出場を果たしている女子部員のレベルをいかにアップさせるかが上げられる。

毎日ハードな練習を積んでいるにもかかわらず「ゴルフは楽しめスポーツです」と笑顔で話すゴルフ部の更なる活躍が楽しみである。



昨年度に引き続き好成績を残した坂井尊治君(商学部2年)は、毎日ハードな練習をこなし



今年、目覚ましい活躍を見せたゴルフ部員

頭上5〜6メートルの高さまで放り上げる「バスケット・トス」という大技等を次々に披露し、会場の歓声を浴びていた。

今年も新生五名が入部したものの全員が未経験者で、総



アーチェリー競技で
大健闘した洋弓部主将
福原 慎君
(人文学部3年)

第52回国体にも5名出場

アーチェリー 福原 慎君(3年)大健闘

部員数十五名と人数的にも決して恵まれていたわけではなく、しかし、後輩への技術指導から始まり、持久力を養うための毎日の走り込みや、夜遅くまでの組体操の技術向上の研究と、部員の心を一つにして頑張るの努力がうかがえる。

つぎは成果が幸運優勝に結び付いたと言える。

八月に行われた全国大会において、57チーム中11位と全国レベルで過去最高の成績を収めることができた点でも選手たちの努力がうかがえる。

日頃の努力・苦勞を見せず、笑顔で応援し勇気を与えてくれる彼女たちには、今年の成績に甘んじることなく、華麗な演技を披露し続けると共に、他クラブ活躍の励みとなるよう今後の活躍に期待したい。

大阪府で開催された第52回国民体育大会(なみはや国体)は夏季大会(九月十三日〜十六日)、秋季大会(十月二十五日〜三十日)とそれぞれ分かれ北海道代表として本学学生が夏季大会に二名、秋季大会に三名出場した。国体の選抜は各種目とも出場枠が非常に少なく、北海道予選等で優勝又は上位入賞を果たさなければ選べない非常にレベルが高い大会である。

今回、アーチェリー競技・成年男子の部に洋弓部の主将である福原慎君が出場、個人戦18位と健闘し、団体戦4位に大きく貢献した。この結果、少年男子・女子の活躍もありアーチェリー競技は男女総合優勝(天皇杯)を獲得した。福原君は「強風と豪雨という最悪のコンディションと、団体独特の雰囲気の中で、気力を維持するのが難しかったが、勉強することが多量な貴重な体験になった。これからは精神力、技術の向上を目指し国体に連続出場したい」と早くも来季への闘志を燃やしていた。

来年度も本学の学生が国体に出場活躍することを期待したい。

《未来への再生》

第27回 大学祭

地域に根差した大学祭を目指して

今年度の大学祭は「未来への再生」をテーマに十月九日から四日間の日程で開催された。

期間中は例年ない肌寒さと風雨の強いあいにくの天候により屋内へ変更する企画があったものの、準備・企画する学生達の懸命の努力によって無事、大学祭が運営された。

地域に根差した大学祭を目指し、企画内容も地域住民との交流を大切に考え、自由に参加できる「フリーマーケット」「地域住民作品展」「G館夜見学ツアー」のほか、「綿餅」「餅」の無料配布が行われた。三日目には、昨年好評を博した「文京豆まき祭り」が学園創立五〇周年協賛企画として開催され、華麗かつダイナミックな演舞に会場は熱気を帯びていた。

初日は、午後五時より屋外ステージにて「飲みうた」歌おろし、笑おろし、札幌ビール園(ビールパーティー)と題し、カラオケ大作戦や伝統のオカマコンテスト「OH!カマ」などの小企画を行った。

続く二日目、元競輪選手で世界選手権十連覇という偉業を果たし「世界の中心」と言われた中野浩氏(スポーツ評論家)を迎えた特別講演会が開催され、聴衆は熱心に耳を傾けていた。また、「プザー・ビーター(バスケボール大会)」には多くの参加者、観客が集まり白熱した試合が展開大いに盛り上がった。

最終日には、学園創立五〇周年協賛企画として関東・関西方面で人気上昇中の斉藤和義氏のライブがSGUホールで行われた。開演前から熱狂的なファンによる長蛇の列ができ、会場は七五〇名近くの入場者で超満員となり、張り裂けんばかりの声援で盛り上がりを見せ、四日間の祭りを締めくくった。

来年度も今年以上に企画の充実を図り、「地域に根差した大学祭」となることを願いたい。

鉄道研究会

道内35駅二五〇〇キロ踏破

会報「待合室」も好評

日頃も休みがあれば、廃止線の探索、列車撮影、他大学の鉄道研究会との交流、旅行

大学祭での研究発表、イベントへの参加など積極的かつ多彩な活動を行っている。

さまざまな視点から「鉄道」に関する現状、問題を研究し、さらに幅広い活動を展開するクラブになるよう今後の取り組みに注目したい。



旧大夕張鉄道 南部駅にて



世界選手権でV10を達成した元競輪選手の中野浩氏の講演会



目玉商品も続々並び、多くの地域住民が足を運んだフリーマーケット